

平成29年 1 月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成29年 1 月の山梨県内の全業種の D I 値は、前年同月比では収益状況 6 ポイント悪化したが、売上高で 6 ポイント、景況感 6 ポイントと全体的な景況感は改善傾向にあるように見える。一方、前月比で比較すると売上高マイナス 16 ポイント、収益状況マイナス 20 ポイント、景況感マイナス 4 ポイントと全ての項目で悪化している。

特に、製造業では前月比の売上高、収益状況ともにマイナス 30 ポイント、景況感マイナス 15 ポイントと急激に悪化した。

昨年 11 月末の O P E C 総会での減産合意により原油価格の上昇によるガソリン・軽油など燃料価格が高騰しており、企業の製造コストの負担が増し、製造業を中心に景況感を押し下げる要因となった。また、訪日旅行客によるインバウンド消費の縮小により観光関連業種の景気悪化、寒波や天候不順の影響により青果物等の価格上昇等による消費者マインドの低下の報告も寄せられた。

一方、アメリカのトランプ大統領の就任後、矢継ぎ早に出された T P P 離脱をはじめとする大統領令や発言により世界経済の先行きに対する不透明感が強まり、今後の国内景気への影響を懸念から多くの業界で動向を注視していることが伺えた。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は低調。ホテル・レストラン、居酒屋向けの生食材が伸長、全体の売上は前年同月比130%となったが、利益面は厳しい。
食料品（洋菓子製造）	自社製品は専門店向けや輸出が不振、OEMの焼き菓子は好調だったが、全体の売上は前年同月比92%と低調。
繊維・同製品（織物）	インテリア関係は前年に比べ受注減、ホテル関連以外は厳しい状況。裏地の注文は少なく、傘地も雨が少ないため受注減。
繊維・同製品（アパレル）	下請縫製の単価が上がり人件費等の経費値上がりにより利益確保が難しい。
木材・木製品製造	店舗物件や公共の造作物件があり昨年より伸長したが、プレカットによる新築加工物件は減少傾向。
窯業・土石（砂利）	中部横断自動車道やリニア中央新幹線工事に伴い峡南地域の荷動きは良いが、甲府地区の動きは鈍い。
窯業・土石（山採石）	例年、年末から年度末にかけて公共工事が集中し需要が見込まれたが、昨年春からの製品出荷総量は減少。
鉄鋼・金属	全体的に仕事量は増加傾向だが、利益が薄い状況。
一般機器	業界全体は少しだが景気改善の傾向。アメリカ大統領の政策により輸出・円相場等を含め、景気への影響が懸念される。
電気機器①	官公庁関係の仕事がない。
電気機器②	半導体関係の注文が増加しているが、生産設備等の受注は多少減産している。

● 非製造業

卸売（紙製品）	アメリカ国内の景況良好により国内の古紙使用が増加したため、中国への輸出が激減。そのため、中国が日本の古紙を高値で取引するため、国内の仕入れ競争が激化し仕入価格高となり収益には結びつかない。
卸売（ジュエリー）	1月の国際宝飾展は来場者数が少なく、特に中国人バイヤーの来場が減少していた。国内流通は、相変わらず厳しい。
小売（青果）	寒波により野菜の入荷量が減少し高値に繋がった。
小売（食肉）	外国人観光客の減少の影響から飲食店、観光地等を含め食肉の消費が減少。
小売（電機製品）	地域店、量販店ともに売上が前年比7%増。地域店は、主力商品である白物家電等が持ち直したことが要因。

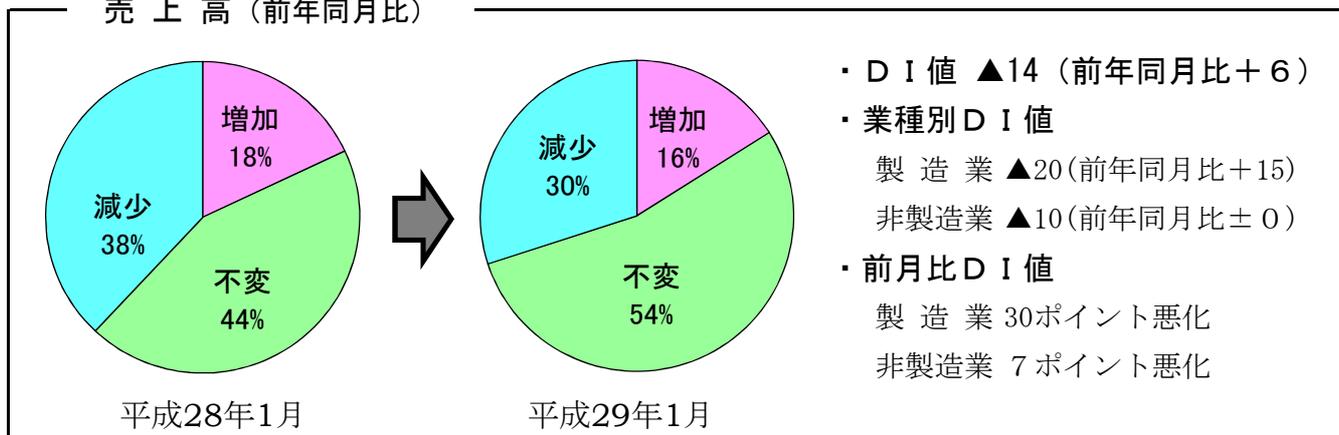
小 売（石油）	人手不足が深刻化しており、現場責任者の労働時間が増加。
商店街	期限付きプレミアム商品券を400セット販売したところ、2日間で完売した。評判も良く回収率も高いため、商店街の売上アップに期待。
宿泊業	閑散期を迎え、国内の観光客だけでなく訪日外国人旅行客数も減少。今後、宿泊料金の低下が危惧される。
美容業	成人式の着付けは、前年同月比115%増加したが、1月中旬頃から寒波により来店客数が減少。
廃棄物処理（産廃系）	非鉄金属や金属の相場が上向き傾向。
警備業	警備員の派遣要望件数は前年同月比5%増だが、警備員の高齢化、他業種への転職等により警備員不足が深刻化。
建設業（総合）	1月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数は7%、請負金額は10%減少。1月までの累計では、件数が3%、請負金額が7%増加。
建設業（型枠）	3月までは例年並みの仕事量があると思われるが、4月以降は企業間で仕事量に格差がでてくる見込み。資材のコンパネやガソリン代等が値上がりしているため、工事単価が上昇しないと経営がますます厳しくなる。
建設業（鉄構）	ここ数ヶ月、鋼材等が値上がりしているが販売価格単価が伸びない。
設備工事（電気工事）	経営者の高齢化等による廃業する組合員が増えてきている。
設備工事（管設備）	公共工事の前倒しの影響により年末の仕事量が減少、収益も悪化。配管工等の職人の高齢化が進んでいるため、労働者確保のため労働条件の改善等の検討が必要。
運輸（タクシー）	企業の新年会や夜間の利用客が減少しているため、タクシー需要は前年同月比86%。
運輸（バス）	昨年の軽井沢スキーバス事故の影響により、毎年あったスキー仕事が減少。訪日外国人旅行客は、団体旅行から個人でのレンタカー移動や鉄道旅行に変わり、バスの稼働率は激減。
運輸（トラック）	物量の減少により売上が前年同月比5%減少。
その他（介護）	ヘルパー不足が顕著。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

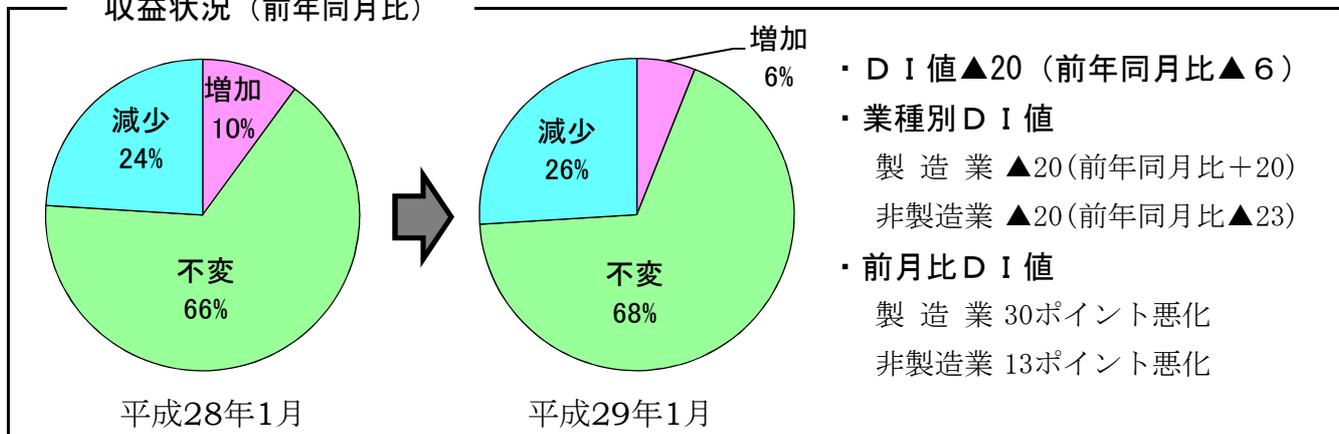
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2016/1	2016/12	2017/1	2016/1	2016/12	2017/1	2016/1	2016/12	2017/1
売 上 高	-35	10	-20	-10	-3	-10	-20	2	-14
収 益 状 況	-40	10	-20	3	-7	-20	-14	0	-20
景 況 感	-45	-5	-20	-7	-17	-13	-22	-12	-16

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

売 上 高（前年同月比）



収 益 状 況（前年同月比）



景 況 感（前年同月比）

